

はじめに

特色

このテキストは、熊本市内に住む中級レベル以上の日本語力を有する外国人留学生が、生活の基盤を築くのに必要な熊本方言を身につけるためのものです。「さしより熊本弁」というタイトルが示すとおり、「さしより（さしあたり、とりあえず）」これだけ知っておけば、熊本方言らしく聞こえるだろうという表現や文型、言い方をまとめました。

外国人留学生の目的は、日本の教育機関で希望する勉強をすることですが、学校に通う前に生活しなくてはなりません。その時に、非常に役立つのが方言です。なぜなら、方言が使えればより深い人間関係を築くことができるからです。しかし、その方言習得のために多大な労力をかけるのでは本末転倒です。ここでは、必要と思われる場面、好まれるであろう表現、文型を厳選し、既習の共通語の上にもう少し勉強すれば方言に聞こえるようになることを目指しました。

このテキストは基本的にはクラス用です。熊本方言話者の先生が教えることを前提としています。ただ、コラムも音声もあるので、自習も可能です。

熊本方言話者の先生方の中には、このような言い方はしない、こんな熊本弁は使わない、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。熊本弁は地域、年齢、性別などにより多岐にわたり、熊本市内に限っても多くのバリエーションがあります。私たちは、細心の注意をはらい、代表的なものを取り上げるように気をつけました。先生方のご指摘、ご意見をお待ちしております。

クラスで使う場合、方言を勉強したくない学生もいます、お気をつけください。

本書を使用する学習者の皆さんへ

もし、教えてくれる先生がいなかったら、あなたの周りにいる日本人の知り合いや学校の同級生に教えてもらってください。このテキストが、熊本の人たちとより親しくなるきっかけとなってくれるでしょう。

本書の構成

記号・用語：教える人が日本語教師ではない場合を考慮し、用語の説明を掲載しました。
課：質問する、誘う・断る、確認する、伝える、説明する、許可をもらう・依頼する、考えを言う。以上七つの機能それぞれを課としました。楽しく学べるよう、イラスト、挿絵、4コマ漫画をふんだんに取り入れました。

コラム：熊本方言に特徴的な表現や言い回しについて簡単な説明をしました。

活用一覧、活用形の使い方：熊本方言での動詞の活用を一覧にし、それぞれの形の使い方や、どこの課に出てくるかをまとめました。

索引：熊本方言に特有な表現、言い方をまとめ、それぞれに相当する共通語を併記しました。

スクリプト：すべての「会話」、「聞いてみよう」を文字に書き起こしたものです。「練習しよう」の解答：参考にしてください。

教室での学習にも自習にも対応できるよう、「会話」、「聞いてみよう」を熊本市内方言話者に発話してもらいました。その音声は、私たちのサイト「話してみよう！熊本弁」プロジェクト」(<http://www.isc.kagoshima-u.ac.jp/hoogen/index.htm>) からダウンロードできます。ご利用ください。

各課の構成

導入用の会話例1（4コマ漫画）、聞き取り練習用の会話例2、表現の簡単な説明、簡単な練習、応用練習、以上を1まとまりから3まとまりで一つの課としました。

コラム

コラムは以下の七つです。

- ①熊本方言の秘訣 ②動詞につく「よる」「とる」 ③熊本方言の敬語
- ④文末に来る「けん」 ⑤文末にくる「たい」 ⑥「よか」
- ⑦熊本の地名：これ、なんて読むと？

報告書

このテキストは、科学研究費補助金（基盤研究（B）（一般））、2006 - 2008年度、「地方中核都市在住外国人のための方言教材の開発－その理念の構築と実際」（課題番号：18320082）の成果物です。この研究事業の報告書も、私たちのサイト「話してみよう！熊本弁」プロジェクト」(<http://www.isc.kagoshima-u.ac.jp/hoogen/index.htm>) にあり、テキストの成り立ち、構成、作成時に困ったこと、コラムにある項目のくわしい調査、報告などがのっています。ぜひ、参考になさってください。